

新進企業 トップの横顔



ジャパンパック社長
ながた ひろやす
長田 宏泰氏 (63)

新進企業 トップの横顔

廃棄が難しい金属缶などの代替品として、リサイクルしやすい機能性段ボールを手掛ける。漁港で魚を入れる発泡スチロール製容器や樹脂製緩衝材などの代わりとなる商品を開発。循環型社会への移行という追い風に乗り、「顧客の困り」

段ボールで困り事を解決

事、解決策を段ボールで形にする。
もともとは富山県内の同業幹部、金属製品メーカー社を主力客に汎用製品を納めるビジネスが行き詰まった経験も。そのため「他社がマネできない製品づくり」が信念だ。しかし、トップ交代を機に営業の軸足を量産品に移したため、一九九八年に独立を決めた。

ジャパンパック設立間もない一九九〇年ごろ、段ボール用接着剤の調達先から接着剤を入れる金属缶の処分に悩んでいるのを聞き、段ボールでの解決に挑戦。初製品の「Nパック」が生まれた。

「粘り強さ」は製品づくりに息づく。例えばドラム缶の代わりに使える大型容器。興味を示す顧客もいたが、「転がせず、運搬が不便」との指摘。自らが顧客のもとに通い詰め、解決策を探った。摩擦を減らすフィルムを底に取り付け、今秋に本格販売を目指す。

「製品のアイデアは顧客のニーズから」。最近、同社を知って悩みを持ち込む企業が増えた。この好循環を生かす。

会社概要
本社 富山県滑川市
事業 機能性段ボールの製造・販売
売上高 3億円
(2008年12月期予想)
従業員 13人

廃棄が難しい金属缶などの代替品として、リサイクルしやすい機能性段ボールを手掛ける。漁港で魚を入れる発泡スチロール製容器や樹脂製緩衝材などの代わりとなる商品を次々と開発。循環型社会への移行という追い風に乗り、「顧客の困り事の解決策を段ボールで形にする」。

もともとは富山県内の同業幹部。金属製品メーカー社を主力客に汎用製品を納めるビジネスが行き詰まった経験も。そのため「他社がマネできない製品づくり」が信念だ。しかし、トップ交代を機に営業の軸足を量産品に移したため。一九九八年に独立を決めた。

ジャパンパック設立間もない一九九〇年ごろ。段ボール用接着剤の調達先から接着剤を入れる金属缶の処分に悩んでいるのを聞き、段ボールでの解決に挑戦。初製品の「Nパック」が生まれた。

「粘り強さ」は製品づくりに息づく。例えばドラム缶の代わりに使える大型容器。興味を示す顧客もいたが、「転がせず、運搬が不便」との指摘。自らが顧客のもとに通い詰め、解決策を探った。

摩擦を減らすフィルムを底に取り付け、今秋に本格販売を目指す。

「製品のアイデアは顧客のニーズから」。最近、同社を知って悩みを持ち込む企業が増えた。この好循環を生かす。